

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第7回）
議事要録

日時 平成22年10月25日（月）午後7時04分～午後9時09分
場所 クリーンセンター3F 見学者ホール
出席 水谷俊博副会長、村井寿夫委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、石黒愛子委員、
木村文委員、千綿澄子委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、
平田昭虎委員、岡田敬一委員、高橋豊委員、渡部敏夫委員、事務局（木村浩クリーンセ
ンター所長他）、コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）
欠席 小澤紀美子会長
傍聴 1名
資料 ・新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマ ・武蔵野市地域防災計画（抜粋）
・武蔵野市防災情報マップ ・【委員提出資料】温浴施設実現に向けた考え方

1. 新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマの検討

事務局より新武蔵野クリーンセンター（仮称）テーマの検討、市道240号線整備計画について、広域避難場所について、資料ファイルについて、の各資料について説明を行った。

続いて、委員より「温浴施設実現に向けた考え方」の提案について説明があった。温浴施設の要望が出ているが、地元への還元施設なのか、熱源の利用施設、コミュニティ施設であるのかなど、その位置づけを検討する必要があることの提案を行った。また、市民プール、四中プールの現状を鑑みた施設計画、管理方式とともにそれらと連動したプログラムの重要性の指摘を行った。温水施設の今後の方向性として、足湯として敷地内に整備する方法、足湯イベントができる設備を整備する方法、市民プールを改修し熱源を利用する方法の3案の提示を行った。

- ・ **副会長** 新施設を考える上で、核心をついた意見である。各委員から意見を求めたい。
- ・ **委員** 四中のプールは、障害者のリハビリなどに定期的に使用している。市民プールとの棲み分けは、高齢者などの利用も含めて行われている。市民プールは、クリーンセンターからの熱源がなくともボイラー設備があるため、独自熱源で対応が可能である。足湯については、市民の皆さんが気軽に立ち寄れて、興味を持つような施設であれば有効ではないかと考えている。
- ・ **委員** 地域コミュニティにスポーツを組み込むという活動は、形はできているがあまりうまく活用されていない。施設についても利用頻度を考慮したうえで、無駄のない、効率のよい施設を検討する必要がある。
- ・ **副会長** 利用いただけるようPRすることと、また利用していただきやすいようプログラムを検討するという2つの考えが重要である。
- ・ **委員** 利用状況を確認するうえで、武蔵野市内外の数字が分かれば教えていただきたい。
- ・ **事務局** 具体的な数字は未だ把握できていない。体育館のほうで様々なプログラムを行っているので、そのあたりは次回以降提示を行いたい。現在、クリーンセンターの蒸気を体育館と市役所に送っているが、需要のある時間しか送ることができない。発電を行い、電気で使

用することが最も効率がよいのではないかと考えている。プールの熱源については、タービンを回した廃熱による温水を利用できるのではないかと考えている。その熱は、足湯にも利用できるのではないかと考えている。

- ・ **委員** 現在、どのようにエネルギーを使っているのかがもう少し詳細に分かるとありがたい。また、今後ごみが減量していくと供給できる熱も少なくなっていく。新しいエネルギーを作り出す方法も研究していただきたい。
- ・ **事務局** 武蔵野のように小さいエンジンでいかに大きな電力を効率よく発電していくかについては、今後も研究していきたい。
- ・ **委員** 緑町コミセンにおいてもクリーンセンターの熱を利用したいという大きな要望がある。現在熱供給に余裕はないのか。
- ・ **事務局** 通常 2 炉運転であれば、昼間に庁舎の冷房、体育館の冷房に使用している。しかし、春・秋の中間期は、冷暖房の使用がないため、ほとんど使用していない。また、現在はごみ量が削減されてきているため、1 炉しか運転していない日が 100 日程度あり、庁舎に優先して蒸気を送っているため、蒸気が足りない場合には体育館でボイラーを稼働させている。蒸気は供給できる時間、施設が限られているが、電気は 24 時間使用することができ、かつ、東京電力への売電も可能であり、効率的な利用が可能である。
- ・ **副会長** 世間一般で言われている「エコ」が本当にエコであるのか考える必要がある。
- ・ **委員** イベントで足湯を開催するという事は、クリーンセンターのごみ焼却に伴う余熱による蒸気を利用するという PR が狙いなのか。
- ・ **事務局** その通りである。必ず説明の看板を設置している。
- ・ **委員** 今日の資料中には、足湯はコミュニティの枠にくくられている。我々が作ろうとしている足湯がどこに位置づけるのかは非常に重要である。
- ・ **委員** 足湯はクリーンセンターをもっと知って欲しいという趣旨から始めている。コミュニティだけでなく、情報発信としての機能も足湯は有していると考えます。
- ・ **委員** 足湯は本当に大勢に望まれている施設か確認する必要がある。また、健康ランドなど大きなものを作ると維持管理が大変になる。イベントのような足湯ではコミュニティなどの意味は薄くなり、毎日衛生的に行うには管理が大変といった問題を抱えている。違う意味での還元も検討する必要があるのではないかと。
- ・ **委員** こもれびの湯に 1 時間ほど浸かったが、知らない人同士の会話があり、ふらっと立ち寄った場所でコミュニティを形成する手段としては十分成立すると感じた。ただし、維持管理はしっかりと行わなくてはならない。毎日清掃を行い、お湯が清潔な状態を保つよう循環させるなどする必要がある。
- ・ **副会長** PR を含めたコミュニティの場という位置づけは考えられるのではないかと。
- ・ **委員** 私は有料の岩盤浴を、施設の中にできれば良いと考えている。岩盤浴で体を癒した後に飲み物を飲みながら男女、年齢関係なく交流ができるのではないかと考えている。
- ・ **副会長** 憩いの場というのは、キーワードの一つに成り得ると考えている。
- ・ **委員** 足湯施設においては、運営時間に注意しなくてはならない。一人当たりの時間などを管理していかないと、平等に市民が利用できるものにはならない。また、40℃ の温水は、非常に雑菌が発生しやすく、何かあった場合には補償問題も考えなくてはならないため、慎重に行う必要がある。

- **副会長** 運営と維持管理をきちんと行う必要があるという指摘はその通りである。実施するのであれば、慎重に設備の選定を行わなくてはならない。
- **委員** 足湯や岩盤浴といった施設にはあまり興味を持っていない。そもそもごみ減量を進める中で、それだけのエネルギーが確保できるかということも課題である。雇用も生まれるが、それ以上に衛生管理が大変であると思われる。八幡町の北高近くにある「湯らく」という施設は、開業当時は多くの方が足を運んだが、時が経つにつれて話題に上らなくなっている。憩いの場ということであれば、余熱を利用したカフェなどのほうが、長い目で見たら良いのではないか。
- **委員** 水を扱う施設の運営は、市民が手に負える範囲でないことは明らかである。生涯学習振興事業団などに委託するという考えられるが、相当の覚悟を持って実施する必要がある。また、市として太陽光パネル、クリーンセンターなどから生み出されるエネルギーをどのように利用するかといった上位計画があるべきではないか。
- **市委員** 環境基本計画の中に当然入ってくるものと考えている。委員の提案でプールの話があったが、現状の課題認識はその通りであるが、市として現在プールに何かするという考えは持っていない。四中のプールと市営プールは、利用の棲み分けを行っているが、長期計画の中で謳われてこない、改修や利用の再検討などを行うことはできない。
- **委員** 本日のテーマで最も関心があるのは、省エネである。市として、低炭素化社会を実現するための目標設定を行う必要があるのではないか。
- **市委員** 先ほど述べた環境基本計画の中で謳っている。22年度中に新しい環境基本計画が発行され、新エネルギーや生物多様性などの記載を行っている。
- **委員** 市道 240 号線の説明でも感じたが、役所内の縦割り組織の連携がうまく機能していないと感じる。庁内プロジェクトとして位置づけているのであれば、どう調整するかも掲げていただきたい。低炭素化社会実現のため、パークアンドライドなどを実施し、歩道を整備するなどの考えがあるかと問い合わせたところ、現在はありませんという回答であった。武蔵野市として長期的な理念を持つ必要がある。
- **市委員** 市の上位計画としては、基本構想長期計画があり、その下の福祉、教育など様々な計画が全て横並びである。ただ、個々の施策をまとめてどこかで協議するという場はない。各部が行っている事業を月に 2 回各部長が集まって方向を確認する場はあるが、細かいところまでは議論できていない。環境については、上位計画があるため、それに基づいて太陽光パネルの設置、学校の冷房など各施策を進めるという方法を取っている。エコセメントについても各部で了解して実施している。
- **委員** 周辺住民からの要望で最も多いのが、歩道における自転車トラブルである。クリーンセンター建て替えの機会に周辺の歩道、道路整備を真摯に行う必要がある。自転車レーンを設けるなど検討いただきたい。
- **副会長** これまでの議論をまとめると、ただ造るだけでなく、プログラムにきちんとしたメッセージが必要であるということだと考えている。希望を含めて、どのようにハードに落とししていくかが非常に重要ではないかと感じる。

2. 第 3 回合同勉強会報告の検討

事務局より、白煙排出実証実験、煙突高さについて行った合同勉強会の報告を行った。

続いて、委員より「来て見て知ってひろげよう」について説明を行われ、「くらしフェスタむさしの」について紹介あった。また、「クリーンセンター運営協議会だより」についても説明し、委員会の内容と協議会の内容をまとめた記載を紹介した。「緑町いきいきにぎやかまつり」、「エコプロダクツ展」についての紹介も合わせて行った。

- ・ **委員** 以前に紹介した資料について、取り上げた関係者に許可を得て配布が可能となったため、持ち帰り頂きたい。また、金継ぎの方からメールをいただいているので、目を通していただきたい。資料の最後に私のメールを載せているが、迷惑施設であることは変わらないのであり、それを乗り越えていくためにはどうしたらよいのかという 1 つの提案として書かせていただいている。
- ・ **事務局** 次回は 11 月 29 日（月）を予定している。12 月は 20 日（月）としたい。副会長より閉会挨拶。

閉会